

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0490900024
法人名	(株)ウエルフェアフォレスト
事業所名	グループホーム あやめの里
所在地 (電話番号)	宮城県多賀城市留ヶ谷3-23-15 (電話)022-361-9780

評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウエル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年9月13, 14日

【情報提供票より】19年8月18日記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年7月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	19 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 22.1 人

(2)建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	鉄筋平屋3棟 1階建ての 1階 ~ 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(120,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 40,000 円/月		

(4)利用者の概要(8月18日現在)

利用者人数	26 名	男性	11 名	15 名
要介護1	8 名	要介護2	6 名	
要介護3	9 名	要介護4	2 名	
要介護5	1 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高 105 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	閑上クリニック、鉤取歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

会社は今年の7月から地域に一層の責任を持ってきめ細かなサービスの提供に努力したいとして分社化され、新しい会社として再出発をされた。今までの医療と介護の連携体制は維持され、尚、来年の2月には富谷町に「杜のまちクリニック」が誕生し医療のバックアップ体制がより強化されることになった。グループホームは、閑静な住宅地に3ユニットが違和感なく地域にとけこんでいる。食堂では、ハーモニカの伴奏で明るい合唱が聞こえている。廊下に有るソファ(セミプライベートゾーン)では、入居者が職員としんみりと話しあっている。廊下では、男性と女性の高齢者が手を繋いで蠅叩きを持って静かに通り過ぎて行った。理念にあるように「利用者自身のペースでゆっくり楽しく」ゆったりした時間が流れていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目4件については、誠意を持って取り組み殆ど対応されている。①運営理念の啓発については、「運営推進会議」等で話をしている。②介護計画の見直しでは、特に変化がなくても3ヶ月に1回は見直しが行われている。③定期健康診断については、市の基本検診の支援をしている。④相談苦情の受付については、第三者委員として地域の民生委員に委嘱されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全職員が自分たちのケアの見直しのよい機会と捉え、各項目毎に検討された。それぞれ自己評価されたものを、ユニット毎に話し合いでまとめられた。サービス成果については、厳しく採点され、少しでもサービスをよくしようという思いが感じられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2回開催され、グループホームの生活支援の様子や活動について事業所側から説明し、委員からの質問等も議事録に記載されている。災害対策の関連では、委員から協力すると言う発言などもあり、有意義な委員会を開催している。開催については、基準省令にもあるように2ヶ月に1回を目途に開催され、その結果をサービスの質の向上に活用すると共に、外部にも公表し地域の皆さんのグループホームに対する理解を、より深めて頂き応援して頂ける様お願いしたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族アンケートによるとホームは、気軽に行きやすく話易い雰囲気がある。家族が困っている事や不安などについては、よく話を聞いてくれアドバイスを頂いている。入居者の健康状態や、小遣い帳のコピーや金銭関係はきめ細かに報告があるが、職員の異動については家族に報告されていない。これからは出来るだけ異動を少なくし異動する場合は、家族にも連絡して頂きたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームが地域密着型サービス事業所になって、理念の実現に特に気を使っているのは、「地域の一員」であると言う事で、挨拶を通して地域の理解を深める努力をされている。町内会にも加入し、地域の子供達の芋煮会やクリスマス会等にも参加をお願いするなど努力されている。尚運営推進会議の議事録の公開等を通して、もっと多くの近所の人や馴染みの人が尋ねて来て頂ける様お願いしたい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス事業としてのグループホームは如何に有るべきか、管理者を中心にユニット毎に皆で話し合い、ユニット毎の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向けて特に意識している事は、「地域の一員」であるという自覚である。挨拶を通して地域の方々に理解を広める努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	向山地区町内会にも加入し、地域の事業所として地域の子供達に、芋煮会やクリスマス会等にも参加をお願いするなど努力はなされているが、尚一層の努力をお願いしたい。	○	運営推進会議の議事録の公表等を通じて、もっと多くの近所の人や馴染みの人が尋ねて来て頂けるようお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通じてこの機会に、各職員が自分たちのケアの見直し、それぞれ自己点検をしその結果をユニット毎に話し合いまとめられている。特にサービス成果については厳しく採点され、少しでもサービスをよくしたいと言う思いが感じられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで運営推進会議は2回開催されて、グループホームでの生活支援の様子や活動について事業所側から説明し、委員からの質問等も議事録に記載されている。災害対策の関連では委員から協力するという発言などもあり有意義な委員会になっているが、尚一層の委員会の充実をお願いしたい。	○	去年の12月と今年の5月に運営推進会議は開かれているが、基準省令にもあるように、2ヶ月に1回を目途に開催され、運営推進会議の結果を、サービスの質の向上に活用すると共に、外部にも公表し地域の皆さんのグループホームに対する理解をより深め頂いて応援して頂ける様をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価にあたっては市の担当者も同席されグループホームに対する理解を深めて頂いた。“認知症になっても安心して住める町づくり”の為にグループホームと行政はよりよいパートナーシップを発揮して頂きたい。グループホームはキャラバンメイトの研修も受け認知症サポーター百万人運動にも理解を示している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族アンケートによると、健康状態や小遣帳のコピー等金銭関係等はきめ細かに報告が有る。唯、職員の異動については家族には報告されていない。	○	職員の異動は必要があって実施されてるが家族にとっても不安に繋がるので、職員の異動についても家族にお知らせし理解と協力を頂く様お願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情は、サービスの質の向上にとって貴重な情報である事を、管理者はよく理解している。苦情に対する公的な機関(国民健康保健団体連合会、市の窓口)だけでなく、第三者委員として地域の民生委員も委嘱しサービスの向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今まではユニット間の異動も含め職員の異動は少し多かったが、ユニットの体制も落ちついて来たのでこれからは、異動は出来るだけしない方向で考えているという。職員の異動は、入居者にとっても家族にとっても馴染みの関係が壊れ不安になる事は管理者も理解している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の資質の向上は基準省令の義務条項で有る事を理解しており、職員を内部研修や外部研修に出来るだけ計画的に参加をさせ、サービスの質の向上に活かしている。職員も積極的に研修に参加し自己研鑽に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の福祉施設の職員や地域の同業者との交流も積極的に進め、情報交換のみでなくよりよい人間関係を結び、ストレス解消等にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者がいきなり「ホームに入れられた」と言う思いを、出きるだけ少なくするよう、職員が事前に入居者に会いに行ったり、家族と一緒に来て頂き見学してもらおう等、少しでも馴染んでもらう努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であり、職員は入居者の身につけている持てる力を引きだしている。日曜大工を得意とする高齢者は、ベンチを修理したり書類入れを作ったりしている。又、子育ての相談にのってもらったり、いろいろ一緒に居る事で教わる事が多いと職員は話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアとして、如何に入居者の思いや意向を把握するかが課題である。グループホームでは管理者が中心になって、認知症介護研究研修東京センター方式を中心に勉強し、個人情報把握し、整理し共有しケアに活用している。特に意志表示の困難な方の、なにげない言葉や行動等にも関心を持って対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームケアであり個別ケアの中心は、介護計画である事を職員はよく理解している。入居者の意志を尊重しながら短期、長期の目標を具体的にたてている。ただ、計画の策定時に家族との相談に充分時間を掛けられない事があった。	○	家族は、介護計画策定後説明を受け納得はしているが、計画策定の段階でじっくり話しあう時間も取って頂けるとお願いしたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は入居者に寄り添っており、入居者の状態の変化が見られる時は、関係者と相談をし必要によっては介護計画の見直しをしている。特に退院等の場合は見直しが基本になっている。又、特に変化がないと思われても3ヶ月に一回は見直しを原則にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が地域で生活している事の実感を、少しでも持てるよう支援している。隣の町の馴染みの理髪店への送迎、通院のサービス、お茶飲み友達への訪問の支援等柔軟に対応している。又、条件が許せば小規模多機能なサービス(ショートステイ、デイサービス等)もこれからの課題である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医また法人の医療関係者との連携がよく、「健康面、医療面、安全面」についても職員がよくして下さるので安心ですと家族アンケートにもあった。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者がグループホームの生活が長くなり馴染みの関係が出来ると、本人や家族の気持ちとして最後までお世話になりたい言う思いも自然である様に思う。看取り介護について「看取り介護についての同意書」に基づいて、関係者の間で充分相談し出来ることはお願いしたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症になっても人間としての尊厳や人権は変わらない。呼びかけ一つにしても、その人の誇りを傷つけないよう本人と相談をして、姓にするか名前にするかを決めている。個人情報については「個人情報提供同意書」を作り個人情報の取り扱いについては、全職員が理解し十分注意して取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式等を通じて出来るだけその人になりきれようように、その人の情報を把握し、その人のペースを尊重している。散歩したり、スーパーへ買物に行ったり、釣りに行ったり、友達のところにお茶飲みに行ったり、出来るだけ希望にそって支援する様努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は「食事は楽しみです」と話してくれた。如何に美味しく楽しい食事にするか職員は気を使っていた。入居者は職員と一緒に準備をし会食し後始末をしながら、会話があり時には明るい笑い声もあった。職員はさりげなくサポートをしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は衛生的な面だけではなく、入りたい時に気持ちよくゆっくり入って頂ける様支援している。入浴が少しでも楽しめる様、季節によっては菖蒲湯にしたり湯の華を入れたり変化をつけている。又、入浴を拒む人に対しては、上手に気分を変えて入って頂けるよう努力されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでいろいろな楽しみごとがあるのに感心させられる。ハーモニカを吹く人、それにあわせて歌う人、おやつを買いに行くのを楽しみにしている人、家庭菜園での収穫を楽しみにする人、おはぎを上手に作る人、それらの残存能力を職員は上手に引き出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者のストレス解消にもなり、気分転換にもなるので、お天気と相談をしながら出来るだけ外にできるようにしている。公園に散歩に行き子供達に声を掛けたり、おやつを食べたり、家庭菜園で作業をしたりしているが、尚一層外出の希望がかなえられる様お願いしたい。	○	外出を希望する時に希望する場所に行けるよう、入居者の気持ちを尊重し一層の努力をお願いしたい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけていない。鍵をかけることの異常性や拘束性については、管理者はよく理解しており、入居者の外出傾向を把握し見守りしながら、日中は自由に外へ出られるように対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	大きな地震、宮城沖地震は何時来てもおかしくないとされている。防災については、マニュアルもあり消防署の指導の下に、地域の協力を頂きながら夜間を想定した訓練も含め、年2回は訓練を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護予防も含め高齢者の栄養管理は、如何に大切か見直されている事を管理者はよく理解しており、体重管理をしながら食事の摂取量をチェックし、栄養のバランスやカロリー等は法人の管理栄養士の指導助言を頂いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花がさりげなくあったり、浴室や台所の入口には可愛い暖簾がかけられており和む物があった。廊下にはホームの行事などの写真があり、廊下のソファにはセミプライベートゾーンも見られた。共用空間全体が明るく綺麗で家庭的な雰囲気が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族の同意を頂き個室を見せて頂いた。今まで使用していた身の回りの物や、趣味の物、飾り物、写真、テレビ、位牌等そこには、ほっとするその人の部屋があった。		